

学校運営について説明

- ・評価は高い傾向 保護者の解答率も高い（88%）
- ・挨拶、規範意識の徹底
- ・生徒一人一人への理解
- ・職員の・・・
- ・家庭との連携、情報発信

3つの重点項目

- 主体性の育成
- 働きがい改革
- 大学附属の強みを活かす

○主体性の育成

- ・ 生徒の出番を作る 探究的な学びの充実
- ・ 研究：自己調整と対話 に力を入れていく
- ・ 学校行事・生徒会活動における生徒企画運営の充実 生徒のコンセプトを大切にしている。生徒に運営まで任せてきた。
- ・ 生徒も参加する授業研究会「響きあい学習会」 現在は生徒と職員で対話し議論する形で進めている。
- ・ 校内研修：生徒参加型校内研修への挑戦 生徒と一緒に目指す方向性を共有できた
- ・ 生活面：ルールメイキングへの積極的取り組み 生徒からでた課題を生徒と一緒に変えていっている。自分たちで学校を変えていく実体験を大切にしている
- ・ 「制服のあり方」を生徒と共に検討 保護者、生徒、職員の代表者が練り上げている。昨年は「私服ウィーク」を実施。そこから見えてきた課題等をもとに議論を行なった。自分ごととして取り組ませたい。

○働きがい改革

- ・ ライフワークバランスをしっかりと取れるようにしていく（1）勤務時間の適正化（2）不要な業務の見直し（3）部活動の地域移行
- ・ 業務の優先順位の明確化 →職員の「やる気」向上につながる、時間管理への意識
- ・ 部活動の地域移行：令和9年度までに外部指導者がいない部活は廃止という方向性を伝える。ラグビー部を中心にNPO法人化への目処がついている状況

○大学附属の強みを活かす

- ・ 大学での探究学習、企業との連携、同窓会による支援体制

【質疑応答・意見交換】

石原様

同窓会の組織 懇親会などを行い、縦と横の関係は築けてきたが学校に対して貢献するといことができていなかった。何らかの貢献を学校にしたいという思いがある。
生徒のキャリアに対して貢献できたらと思っている。

これまでの学校は、一方向的な指導であった。一緒になって学校を作っていくという姿が今の時代に合っていると感じる。この方向性に賛同している。

榎木様

先をいく取り組みであると感じた。主体性を伸ばすという具体的な事例が参考になった。評価アンケートが生徒の主体性の変化の度合いが現れるようなアンケートに取り組みられてみてはどうか？自由記述でないと難しいかもしれないが、この変化が見とることができればさらに良い取り組みになると思われる。熊本市ではスクタンを利用している。

松島校長

分析を担当の方で進めているところ。主体性に関するアンケートは取ってはいるがまだ足りていない状況。スクタンについては今後活用する予定。

藤本教頭

地域の学校に研究授業や校内研修などにご案内することで、生徒と共に学校を作っていく取り組みを紹介・発信できるように今後検討していきたい。

石原様

教員の研修について熱心さが伝わる。 附中の職員になることは責任が重くプレッシャーに感じることもあると思われることもあると思うが。

冨永 プレッシャーに感じることもあるが、我々が思い描く学校を実現できるという学校の良さがあり、職員のやりがいに繋がっていると感じている。また、やりたいことをどんどんやっっていこうという良い風土もやりがいに繋がってきていると感じる。

石原様 今後も頑張ってください。期待している。

松島 国際コースについてお伝えしておきます。(国際コースの現状について説明)

藤瀬様 生徒が主体的に活動する具体的な例を教えてください

松島校長 企業との連携（ベネッセを例に）、アントレプレナーシップへの活動、総合のキックオフ会のために同窓会との連携、プレゼン力向上のための外部連携

塩村校長 主体性をどう伸ばすか 機会を与えるということができていないため、中学校の取り組みを参考にさせてほしい。 大学附属の強みとして、小学校との連携を今以上に充実させてほしい。

松島校長 小中連携はなくてはならないもの 同じ学校として今後進めていきたい。探究や総合は小学校と連携することがより良い育ちにつながっている。今後ともお願いしたい。

平野様 主体性をどう育むのかという課題に対して積極的に取り組まれている姿が見られた。 附属の強みとして、同窓会という存在が大きいと感じた。これだけ同窓会が協力いただけるのは、附中のこれまでの教育の賜物と感じた。

授業研究会について 児童が参加する授業研究会は宇土市でも実施している学校もあり、その大切さをあらためて感じた。 熊本県では、児童生徒参加型校内研修のための参考資料も提示している。ぜひこちらも参考にさせていただきたい。

松島校長 天草でも児童生徒参加型校内研修などを実施している学校があった。生徒と共に学校を作っていくというムーブメントを感じている。

岡様 保護者の立場としてこのような取り組みありがたい。この取り組みを保護者に周知していきたい。 保護者の負担もかかりすぎず、職員の負担もかかりすぎないようにするために協力していただけたらと感じた。

藤瀬様 附属中の取り組みを、附属小学校の児童が見る機会などはあるのだろうか？

藤本教頭 なかなか実施できていないのが現状。入試説明会で本校生徒がお世話をする機会などは行なった。本校の取り組みや魅力を小学生にも発信できるような取り組みは実施していきたい。

秀嶋様 後援会は保護者の皆様の協力で成り立っている。しかし 躊躇される方も出てきた。PTA がなくなるような時代になってきた、今後どうするか5年先、10年先を見据えて今後のあり方を検討していく必要性を感じている。

福富様 様々な附属中の催しの中で、附属中に対する肯定的な意見を多く聞くようになった。附属中の縦・横の繋がりの大切さをあらためて感じた。それも附中の綱領が大きな役割があると感じている。附中の綱領の凄さをあらためて感じている。
課題として、近年授業を参観させていただく中で感じることは、先生方の授業の質の向上を求めたい。

石原様 同窓生のやる催しは応援したいという同窓会の気持ちが表れてきている。附属中への貢献に繋げていけたらと思っている。

田中様 ご挨拶

閉会